広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	スナップ
Author(s)	児童の言語生態研究会,
Citation	児童の言語生態研究 , 12 : 83 - 85
Issue Date	1985-05-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045140
Right	
Relation	

スナップ

今回は、子どもの〝はしゃいでいる〟ときの対話・作文・詩を集めてみた。

(1)〝うんち〟の話は子どもの猥談
(2)〝いじめたくなっちゃう〟子どもの愉悦心をくすぐる残忍性
(3)男と女のつや話
(4)興奮（ドキ〳〵・かくれる・ひそむ）
(5)のろい・おばけ
(6)子どもがだまるとき

(1) うんちの話は子どもの猥談

・（その1）

T「Oのうち、うんちがポカポカうかんでんだよ。それにおしっこも、あそこにかかってんの。」
S「Oちんの庭って、ひりょう、うんちなんだよ。」
T「Nがうんちなめちゃったんだよ。」
K「おしっこもなめたんだよ。」
T「すなもなめたんだよ。」
Si「うんちもってきてあげようかって言ったら、きょうは食べないって言ったんだよ。」
T「おれ、Nとけんかしたんだよ。めちゃめちゃで。」
K「おれんちのいとこみみず食っちゃったんだよ。みみず、おいしいって……。」
S「Oんちなんて、おかしいんだよ。」
T「Dという人のうち、犬がいるのね。ころころ持っているからね、よく見たら、うんちさわっているんだもんよ。もう、わらっちゃったよ。」
〈どんな色しているの。〉
T「白。」
〈白なんかあるの？〉
T「あるよ。ねこのうんちとか、かんそうすると、白くなったりするんだよ。」
S「見たことあるよ。」
K「おれね、うんちさわったことあるよ。もろ……。手でさあ……。」
T「うんちもち上げたりするよ。人間のうんちはね、ゲリ便みたいだけどよ。人参とか入っているんだ。うんちの中、ときどき入っているよ。」
K「知ってる。コーン、おれも知っているよ。コーン、まめとか、入っているよ。」
Si「おれも。トウモロコシだろう。知ってる。あるよ、おれも。」
T「犬のうんちさわってみたら、トウモロコシが入っていたの。」
Si「どうやって、わかったんだよ。」
T「棒があったからね。ブスッとわったの。もち上げたらね、急に落っこってね。それがわれてトウモロコシがみえたんだよ。」
K「うんちって、黄色いやつもあるよ。」
T「黄土色もあるよ。」
S「あとね、こげ茶とかもあるよ。」
K「みどり色のうんちね。あとね、ほうれん草とか食べたとき出るよ。」
T「きいたこともないな、みどり色のうんちなんて。」
Si「Kちゃん、みどりのうんちしたことある？」
K「えっ、ないよ。生まれたばっかしのときさあ。ちょっとみどり色っぽい、うんちしたことあるよ。」
T「えっ、みどりのうんちあんの？」
K「あるよ。ほうれん草食べたとき出るよ。」
T「えっ、きいたことないな。」
S「ぼくね、げりしたときね、ナットウが、そのまま出たよ。」
Si「えっ、ナットウが……。」
S「そのまんま、げり便の中に、ナットウが十粒ばかりはいっていたんだよ。」
Si「そういうの消化されてないっていうんだよ。」
K「おれもそういうときあるよ。」
S「ごはんつぶがね、こういうふうに……。」
Si「先生、うんちが出なくて、マメだけ出るときあるよ。」
T「いやに、きたない話になっちゃったな。」

（中略）

K「（Hに）なんか、あいつチンゲがはえているかんじよ。」
Si「チンゲ、はみ出していたよ。あいつ、チンゲはえるの早いんだよ。」
K「もう、もやしの森になっているよ。」
Si「そう、おれが、チンゲの森をもやしって考えたんだよ。」（三年男子）

・（その2）

「山にきのう行ってね。とばしっこしたら、ぼくが一番。Oは三番。」
O「ぼくのが一番大きかったんだけどな。ざんねん。」（三年男子）

※・（その3）

学校の放課後にこっそりテレビを見ている子がいる。丁度、お昼のメロドラマがあった。
Y「おれ、こういうのみていると、オッタチになっちゃうんだ。」
M「そうそう、おれ、Yちゃんの見たぜ。」

スナップ

・（その4）
K「おまえは、くそ！」
K「おまえはウンチ！」
K「おまえはチンポコ！」
K「おまえは……。」
と、指さしをしながら、言っているうちに、声が上ずってくる。私が、
〈Kちゃん〉
と目でたしなめると、
K「わあ――、どっとさめちまったよ。つまんねえの。またふだんだよ。」

・（その5）
きたない話をまともにするとおこられると思っているらしく、食事中の会話が変わってきた。
A「ぼくは、○○○をするとき、どうしのも○が出ちゃうんだ。それでそういうときは曲がって出ちゃうんだ。」
H「私はその○○○のときは○○○だけよ。」
このグループはにやにやしながら楽しそうに、○○○を連発して食事をしていた。
（三年男子・女子）

(2) 〃いじめたくなっちゃう〃 子どもの愉悦心をくすぐる残忍性

・（その1）
T「かわいい子がいたら、いじめたくなっちゃう。」
K「おれもいじめたくなる。かわいい子がいると……。なんか気持が、あ――ってなっちゃう。」
T「なんかいじめたくなる。かわいすぎて。かわいい子みていると、よだれが出ちゃう。なんか食べちゃいたいくらい。」
S「Tちゃんて、おっぱい食べたいって。」
K「何いっているんだよ。エッチ。」
T「エッチなことをいうなよ。S。」
（中略）
K「Tちゃんて、おこるとなんでもかむんだよ。女をかむんだよ。」
Si「わかった。好きだからだ。」
T「おれ、そんな事、言ってないだろう。」
（三年男子）

・（その2）
I「よー、おまえヘビふりまわしたことあるか。」
Y「ない。」
I「ヘビって泣くみたいな顔するぜ。オレそうすると、もっとやりたくなっちゃう。」
（三年男子）

(3) 男と女のつや話

・（その1）
Y夫「ねえ、色っぽいってどういう意味かな。」
T子（体をくねらせて）「やぁだぁー」
Y夫「知ってんのか。何だよ。」
T子「いやだ――、色っぽいだって。」
Y夫「だから、何だって、きいているんだよ。」
T子「なんだ。知らないのかよ。わかっているみたいな声して。」
I夫「つまり、色のことだよ。」
（三年男・女）

・（その2）
久ぶりにきた深之。
〈ふーちゃん、ずいぶん男っぽくなったね。〉
深之「いやだなあ、節ちゃん、ぼくは男だよ。ところで節ちゃんだって、女になったよ。」
（四年男子）

※・（その3）
C子「まったくやんなっちゃうよ。近ごろの男は浮気っぽくってさ。」
A美「そう。」
C子「片想いなのに。それもさ、無視しちゃって。」
A美「私たち年ごろだもんね。」
M子「うん。」
A美「ばかにされちゃうね。」
C子「中学の人なんてね。恋人だいたいの人がいるんだよ。」
A美「あなたも早く恋人つくりなさいよ。」
C子「そうだよ。あのね、OさんとSさんとMさんが、わかんないのよ。好きな人。」
A美「そうだよ。Mさん、はっきりゆっちゃって。私なんて、ぜーんぶだいたいの人に言っちゃってんだからね。」
C子「そうだよ。」
A美「私たちだって、浮気なんだよね……。」
M子「大きくなったら、どうするの？。」
A美「大きくなっても、愛し続けるの。」
M子「ぜったいに？」
A美「この学校にいるかぎり。」
（三年女子）

(4) 興奮

・（その1）
みんなで、トランプ遊びをやる。同じカードがきたら相手の名前を呼ぶゲームである。
知世「ふーちゃん、ずるいよ。人のこと指さしして、指さされるわ、ちよの声、ひっこんじゃ

スナップ

うよ。」
深之「じゃあ、知世も指させばいいだろ。」
知世「もう、まったく、こうやるから、知世声が出ないよ。」
（知世二年・深之四年）

・（その2）
坊主めくりをする。なかなか手を出さない京子ちゃん。
京子「あ――だめだよ。ドキドキしちゃってとれないよ。だめだ。京子見ている方がいい。」
瑞紀「わたしも、ここんとこ、ドキ〳〵しちゃって、死にそうになっちゃう。」
（一年女子）

・（その3）
かくれんぼをする。結城と一緒にかくれる。お風呂場のしきものをかぶり、かくれる。
〈シィ――。〉
結城「クク……。」
〈ゆうくん、わらっちゃだめよ〉
結城「クク……。」
〈また、シイ――。〉
結城「ぼくわらってないよ。わらうのやめようと思ってもね。でも、おなかが、こうねえ、ふるえるっていうか。ゆれてくるんだよ。ダメダ……。」
（四才男）

・（その4）
「ちょっと人には言えない夏休みのこと」
という題の作文
「私は映画を見ていたんだけど、その映画に出てきた女の人と男の人が、だんだん近づいてきました。私は、あーキスするな、って思ったら、顔がまっかになりました。やっぱりキスしました。恥しくて、しかたがありませんでした。」
（六年女子）

(5) のろい・おばけ

H・（その1）
H「あ、のろいがかかるぞ。」
〈どうして？〉
H「だって、またここに目があるもん。」
新聞紙でお面の下ばかりをしている。新聞紙の破ったところに丁度目が入っていると、それをはると、のろわれるというのである。
H「ぼくなんか、もう四回も、のろわれている。」
〈どうやって、のろいを解くの？〉
H「心をこめてね。この上に和紙をはるの。心をこめてだよ。」
（三年男子）

・（その2）
ひとりで学校内の廊下を歩いたあと作文を書かせた。
「……おばけが出るといわれているトイレの横を通るとき、ぼくは妖怪よけのおまじないをしていたから、大丈夫でした。」
（三年男子）

(6) 子どもがだまるとき

（だまらせて、学校めぐりをしたあとに書いた詩）
H・S

だまる
心の中で
「一、二の三、むっ。」
ときあいを入れた。
しーんと、しずまりかえる。
きもちがわるい。
歩きながら、ろうかのかべに、
ほおをつける。
ふしぎだ。
いつもより、つめたい。
いつもより、気持ちいい。
だまっていると、みんなつめたい。
ろうかのかべも。
うわばきも。
かいだんも。
みんなつめたい。
だまっていると、心の中が、
今、
そうじされているようだ。
（三年男子）

（※のついているスナップは、八王子市立第六小・小林照子氏報告　その他のスナップは町田市立成瀬台小・中川節子氏採集）